

# スジアラ種苗生産技術開発試験

企画・栽培養殖部 主任研究員 今吉 雄二

## <目的>

奄美海域において、放流対象魚種として最も重要視されているスジアラの安定した種苗量産技術を確立する。

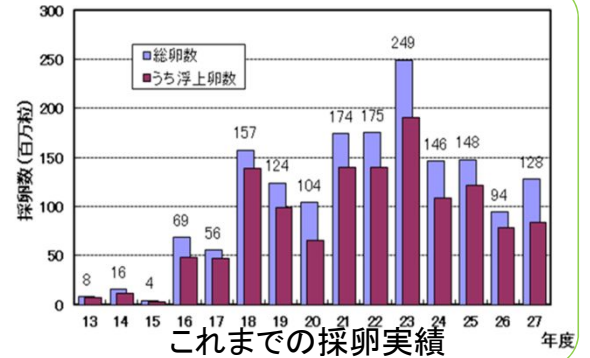
## <親魚養成>

○種苗生産に用いる受精卵を確保するため、自前で親魚を養成。

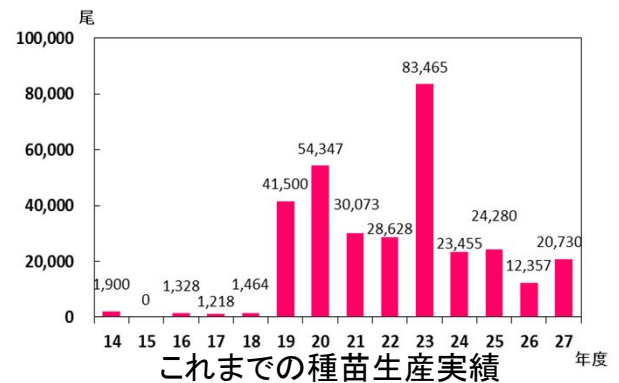
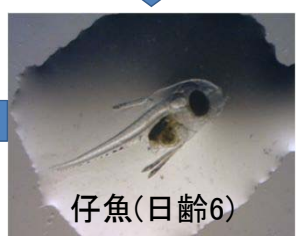
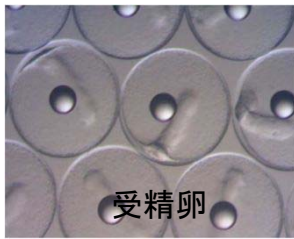
○平成18年以降、ほぼ毎年1億粒を超える採卵実績がある。



200KL水槽内の親魚

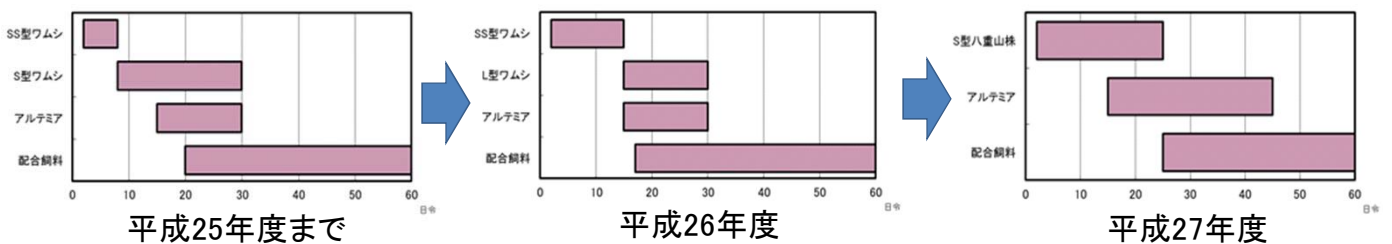


## <種苗生産>



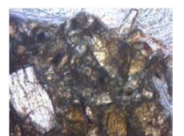
○平成18年以降、万尾単位での生産を実現。しかし、餌料の切替等の課題は未解決であり、量産技術確立には至っていない。

○生物餌料から配合飼料への切替の状況を改善するため、以下のとおり餌料系列を変更



平成27年度は、全ての試験水槽で平均全長12.3~14.3mmに成長した段階で、90%を超える配合飼料摂餌率を達成。

3回次試験のサンプルの胃内容物(結晶状に見えるものが配合飼料)→



## <種苗生産における課題>

- 日齢10前後までの初期生残率向上。
- 物理的原因(照明, 底掃除等)による減耗の防除
- 餌料切替状況の改善を含む日齢40前後以降の斃死原因の解明と防除

